

指定管理者の管理運営に対する評価シート

| | |
|--------|--------------------|
| 所管課 | 環境局環境監視部環境監視課 |
| 評価対象期間 | 令和2年4月1日～令和3年3月31日 |

1 指定概要

| | | | | |
|-----------|---|--|---|-------|
| 施設概要 | 名 称 | 北九州市響灘ビオトープ | 施設類型 | 目的・機能 |
| | 所在地 | 若松区響町一丁目126番1号及び二丁目 | | |
| | 設置目的 | 北九州市響灘ビオトープの貴重な自然環境を保全するとともに、生物の多様性の確保、その他自然環境の保全に関する学習及び交流の場を提供し、自然と共生する社会の実現に資すること | | |
| 利用料金制 | 非利用料金制 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制 | | | |
| | インセンティブ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | | ペナルティ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | |
| 指定管理者 | 名 称 | 響灘ビオトープ共同事業体 | | |
| | 所在地 | 北九州市若松区ひびきの1-1北九州市立大学国際環境工学部内 | | |
| 指定管理業務の内容 | <ul style="list-style-type: none">・ 施設の利用許可に関する業務・ 利用料金の徴収に関する業務・ 施設の維持管理に関する業務（清掃、警備、安全管理、草刈、軽微な修繕等）・ 施設の運営に関する業務（ガイド、広報宣伝、エコツアー等イベント企画運営等）・ ビオトープの自然環境の保全に関する業務・ 自然環境の保全に関する学習及び交流の場の提供に関する業務・ その他苦情対応等 | | | |
| 指定期間 | 平成31年4月1日～令和6年3月31日 | | | |

2 評価結果

| 評価項目及び評価のポイント | | | | |
|--|--------|--------|-------------------|-------|
| 1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み | | | | |
| (1) 施設の設置目的の達成 | | | | |
| ① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 | | | | |
| ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 | | | | |
| ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 | | | | |
| ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。 | | | | |
| 【所見】 | | | | |
| ①目標の達成 | | | | |
| ◎来園者数・ガイドツアー参加者数 | | | | |
| いずれも、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大防止のための臨時休園や受入れ人数の制限などが大きく影響し、大幅に減少している。 | | | | |
| 「来園者数」については、臨時休園（4月9日～5月17日）、イベントの中止や人数制限、貸室利用及び団体受入れの休止などが減少要因であり、要求水準を下回り（34%▼）、前年度実績と比較しても減少している（40%▼）。 | | | | |
| しかし、そのような中でも、コロナ対策を徹底し、人数制限や社会的距離を保ったイベントを実施するなどして、2～3月は前年度比で増加するなど、コロナ禍での集客を積極的に考える姿勢は伺える。 | | | | |
| 子どもが自然と触れ合う機会の創出を目的とした夏のイベント「池に入ってワクワク生き物探し」、ネイチャーセンター全体を広く利用した彫刻作品の展示会、「鳥がさえざる緑の回廊植樹会」での協力など、いずれもコロナ対策を実施しながらではあるが、多種多様なイベントを実施し、報道でも数多く取上げられている。 | | | | |
| ※参考：2月3月来園者比較（単位：人） | | | | |
| | | 2月来園者数 | 3月来園者数 | |
| | R1年度 | 938 | 692 | |
| | R2年度 | 1,040 | 971 | |
| 来園者に対して専門スタッフが園内の動植物について解説しながら、園内を案内する「ガイドツアー」についても、4～6月の間のツアーの休止、積極的なPRの自粛や環境アクティブラーニングなどの学校利用を含む団体での来園者の大幅な減少などがあり、要求水準を下回った（54%▼）。来園者数と同様にコロナの影響を受けているが、主催事業のプログラムに組込んだりと、要求水準に少しでも近づけるための方策を検討・実施しており、一定の評価はできる。 | | | | |
| 【来園者数及びエコツアー（ガイドツアー）利用者数（単位：人）】 | | | | |
| | 来園者数 | | エコツアー（ガイドツアー）利用者数 | |
| 年度 | R1 | R2 | R1 | R2 |
| 要求水準 | 18,000 | 18,000 | 4,500 | 4,500 |
| 実績 | 19,784 | 11,879 | 4,987 | 2,432 |

◎園内生物の生息状況の把握、希少種保全及び外来種の駆除等

毎月1回、野鳥の観察、写真による記録を行うほか、専門家やボランティアスタッフと協力しながら、鳥類、水生昆虫などの調査を行ってデータを収集し、継続的な生息状況の把握に努めている。

希少種の保全に関しては、チュウヒの年間を通じた個体観察や飛翔行動、営巣の確認など、有識者と連携して保全に取り組んでいる。また、活動継続のため、外部資金獲得の申請をするなど意欲も伺える。ベッコウトンボについても、令和元年度に引続き、頭数調査や採卵した卵の孵化・人工飼育などを関係団体と協力して行い、継続した生態把握に努めており、平成30年度まで減少傾向にあった頭数は年々回復傾向にある。

外来種のスクミリンゴカイ（通称：ジャンボタニシ）については、コロナ対策のため、例年のイベントを中止しなければならない状況もあったが、学生ボランティアと協働で駆除に取組むとともに、コロナの状況を見ながらスポーツの要素を取入れるイベント実施を計画するなど、ユニークな視点で取組む姿勢は評価できる。

また、公開区域の園路確保やビオトープの生物多様性の確保・維持のため、意欲的に植生管理を行っている。特に、草刈りについては、低草を好む渡り鳥の繁殖呼び込みや入園者の散策性向上を目的とし、季節毎の野鳥の飛来状況に配慮しつつ、外部業者に頼ることなく、自分たちの意思でエリア毎に計画的に行っている点は評価できる。

湿地保全では、今後の管理を容易にするため、1番池に管理道を設けたり、ヒメガマの伐採時期を従来の冬季から初夏に変更するなど独自に工夫するとともに、スタッフ自らが行えるように専用のトラクターをリースしたり、職員が「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育」を受講したりしている。

また、ベッコウトンボなど希少種を含む水生生物の生息環境を考慮した根茎除去を実施するなど、状況に応じた保全策を講じている点は評価できる。

【響灘ビオトープにおける調査一覧】

| 調査項目 | 協 力 |
|--------|--------------|
| 鳥類調査 | 響灘ビオトープ愛好会 |
| 水生昆虫調査 | 福岡県立北九州高校 魚部 |
| トンボ類調査 | 日本トンボ学会 |

【希少種保全・外来種駆除の取組み一覧】

| 取組み | 対 象 | 内 容 |
|-------|----------|--|
| 希少種保全 | チュウヒ | 3番池における行動観察、営巣状況の確認 |
| | ベッコウトンボ | 孵化・給餌等の人工飼育 |
| 外来種駆除 | スクミリンゴカイ | ・「スポーツジャンボタニシ拾い」を計画 ・明治学園高等学校とともに捕獲 |
| | チョウセンイタチ | 箱罠を設置したが、捕獲はできなかった (生息の確認はされている) |
| | ウシガエル | 北九州高校 魚部とともに捕獲 (オタマジャクシ) |

② 利用促進のための取組み

◎イベントの開催

コロナ対策として、主催イベントは4～6月まで中止した。7月以降はコロナの状況を見ながらの開催となり、回数や1回当たりの参加者数の制限などを実施したが、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした季節に応じた魅力あるイベントを積極的に開催しており、開催数は37回で、前年度39回とほぼ横ばいであった。

また、密にならない来園者増の取組みとして、芸術分野の展示を初めて開催するなど、新たな事業を積極的に実施している点が評価できる。

夏季の「池に入ってわくわく生き物探し」では、1番池の一部を開放し、子どもが自然と直接触れ合う機会を創出することで利用者の好評を得ており、結果として家族単位でのリピート客が生まれているほか、北九州高校魚部と協働で実施した「魚部と図鑑作り」は、テレビ西日本の取材を受けている。

冬季では、屋内型のクラフト教室を中心に集客に励み、ビオトープで刈取りに苦慮している葛を使用した「葛かご作り」や「植物万華鏡作り」のほか、季節を感じる「まっぼっくりツリー」、「消しゴムハンコで年賀スタンプづくり」を実施している。

また、白野江植物公園を中心とした複数の施設で実施している「アサギマダラスタンプリヤ」に参加したり、ネイチャーセンター全体を展示室として活用し、展示物・来館者ともに密にならないように実施した「原谷明弘木彫展」といった新しい取組みも実施した結果、TVQでの放映や西日本新聞の福岡市版掲載を受け、市外からの来園に繋がるなど、反響は大きかった。

ビオトープ園外への出張事業も積極的に行っており、「鳥がさえずる緑の回廊植樹会」では、駐車場利用者への入園を促すなど入園者数増加に結び付ける仕組みを構築している。

環境局環境監視課が実施する市内小学校への出張授業では、北九州市のいきもの大切さや生物多様性を題材とし、その中で響灘ビオトープを紹介しているとともに、福岡市で開催された展示会に出展しビオトープをPRするなど、積極的に外部からの取込みを図っている。

【開催イベント：抜粋】（通年・毎月は閉園期間中を除く）

| 項目 | 開催時期 | 内容 |
|----------------------|--------|---------------------|
| 参加者募集イベント (各1日開催) | 通年 | クラフト・標本作成・図鑑作り |
| | 通年 | 草原迷路 |
| | 毎月 | 観察会(野鳥) |
| | 年に4～5回 | 生態学習・外来種駆除(ジャンボタニシ) |
| | 8月15日 | 魚部と図鑑作り |
| | 8月22日 | ライトトラップ&星空観察 |
| | 9月5日 | スポーツジャンボタニシ拾い(雨天中止) |
| | 11月14日 | 北九州高校魚部と生きもののおはなし会 |

| | | |
|---------------------|----------|---------------------------|
| 集客イベント (期間有り) | 8月 | 池に入ってワクワク生き物探し |
| | 7月～10月 | 草原迷路 |
| | 9月 | アサギマダラスタンプラリー |
| | 10月3～11日 | 開園8周年感謝祭(ビオトープの8を探せ) |
| 企画展示 (期間有り) | 10月 | 栗林慧写真展 |
| | 11月～12月 | 野鳥写真展 |
| | 1月～2月 | 原谷明弘木彫展～北九州の動物たち～ |
| 園外イベント (出張ビオトープ) | 8月～11月 | 出張授業(計5校実施) |
| | 8月～3月 | 響灘緑地主催野鳥観察 |
| | 11月1日 | 秋の入学式出展 |
| | 11月23日 | 市民カレッジ |
| | 3月20～25日 | 福岡市主催「生き物と私たちの暮らし展」 出展 |

③ “複数の施設を一括して管理する場合” には、該当しない。

④ 営業・広報活動

新聞やテレビなどの報道媒体による利用者増を目指すとともに、費用をかけないPR手段として、市政記者クラブへの投込みや報道機関への直接の連絡などでの情報発信を強化し、合計20件取上げられている。

市政記者クラブへの投込みでは、コロナ対策として、季節の動植物出現情報などを多く提供し、集客イベント関係は極力避けた。また、初めて実施した芸術展示「原谷明弘木彫展」では、市内だけではなく市外版の新聞紙面にも取上げられ、その記事を見て市外から来園されるなど反響が大きかった。

なお、従来の夏季、冬季のイベントチラシや市政だよりなど紙媒体での情報発信に加え、Twitter及びYouTubeを開設し、イベント情報や園内の様子など最新情報の提供に努めている。

【報道で取上げられた一覧】(単位:件)

| 媒体 | 新聞 | 雑誌・機関紙 | テレビ | ラジオ |
|----|----|--------|-----|-----|
| 件数 | 9 | 4 | 6 | 1 |
| 計 | 20 | | | |

(2) 利用者の満足度

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

① 利用者アンケート

コロナ対策として密を避けるため、積極的なアンケートの声掛けを行っておらず、回答数は58（前年度244）と少なかったものの、「施設の利用」、「展示物」、「スタッフの対応」及び「ガイドツアーの内容」の全ての項目で、100%近くの高い評価を得ている。

【アンケート結果 (%)】

| | 施設の利用 | | 展示物 | | スタッフの対応 | | ガイドツアーの内容 | |
|----|-------|---|-----|---|---------|---|-----------|---|
| | ㊦ | ㊧ | ㊦ | ㊧ | ㊦ | ㊧ | ㊦ | ㊧ |
| R1 | 99 | 1 | 99 | 0 | 100 | 0 | 100 | 0 |
| R2 | 100 | 0 | 98 | 2 | 100 | 0 | 100 | 0 |

【評価】㊦：大変良かった・良かった、㊧：あまり良くなかった・良くなかった

② 利用者意見の把握・反映

指定管理に係るアンケートだけでなく、イベントごとのアンケートや来館者・来園者との会話の中で、意見や感想を把握するように努めている。

また、「お客様要望およびヒヤリハットシート」を作成し、スタッフで共有し改善に努めるなど、その後の施設運営に反映・対応できるような仕組みを構築している。

なお、利用者意見の反映として、昨年度の利用者意見から、車いすでも野鳥観察を行いやすいように、設備の改善を行っている。

③ 苦情対応

真摯かつ丁寧な対応を行っており、目立ったトラブルは確認されていない。直ぐに解決できない場合でも、管理者に速やかに引継ぎを行うなど、苦情対応を行う体制を整えているほか、対応及び利用者の満足度向上を目的として、スタッフ内で業務改善会議を行うようにしている。

④ 利用者への情報提供

響灘ビオトープ HP や SNS を活用し、その時にビオトープで見られる生きもの情報やイベント情報を随時発信している。また、メールマガジン登録者に対しイベント情報をメール配信するなど、利用者サービスの向上に努めている。

⑤ その他サービスの質の維持・向上

広い園内をネイチャーセンターからライブで見ることができるよう web カメラを新規に設置したり、YouTube で最新の動物情報の提供を実施するなど、園内に入ることができない時や来園できない場合のサービス向上を図っている。

また、無料で利用可能な Wi-Fi サービスを導入するなど、常に利用者サービスの向上に努めている。

【サービスの質の維持・向上の取組み一覧】

| | 取組み名 | 備考 |
|------|--------------------------|-------------------------------------|
| ハード面 | 4Kカメラ・モニターの設置 | 見晴らし台に4Kカメラを設置し、ネイチャーセンター内でライブ映像を放映 |
| | キッズスペースの設置 | 幼児向けの本や遊具等を展示スペースの一角に設置 |
| | 無料Wi-Fiサービス | お客様向けにネイチャーセンター内に導入。災害時にも活用。 |
| | 日よけの設置 | 夏場の休憩場所として園内に設置 |
| ソフト面 | 塩飴の無料配布 | 夏季（6月末～9月）に配布 |
| | 赤ちゃんの駅登録 | 乳幼児を抱える保護者の来園を促すために登録。 |
| | 「まちなか避暑地」「まちなか暖らん」登録（継続） | ていたんポイント機の設置 |

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

① 経費の効率的な低減

支出の多くを占める人件費の削減策として、年間を通した変形労働制の採用（労働時間の柔軟な調整）や、業務のマルチタスク化（業務の兼務による柔軟な運営）などに取組んでいる。光熱水費については、コロナ対策などで計画的な予算執行が困難な中、猛暑の影響もあって増加はしたものの、維持管理費の抑制のための電力契約の切替え（11月から）や、閉園後の点検実施、使用量・料金の職員全員での共有などを行い、金額の削減だけでなく省エネルギーを意識した運営を行っている。

② ③ 経費が最小限となる工夫、経費の効果的、効率的な執行

除草などの園内の植生管理、除草やイベントのための池の水位管理などについては、トラクターの年間リースや水中ポンプの購入、職員が「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育」を修了してノウハウの蓄積を図るなどして、年間を通じて計画的にスタッフで対処しており、効果的・効率的な経費の執行に努めている。

【指定管理料（千円）】

| 指定管理料 | 【参考】H30年度（更新前） | R1年度 | R2年度 |
|-------|----------------|--------|--------|
| 予算 | 44,293 | 42,167 | 42,372 |
| 決算 | 44,293 | 42,167 | 42,372 |

| 総事業費 | 【参考】H30年度(更新前) | R1年度 | R2年度 |
|------|----------------|--------|--------|
| 予 算 | 45,378 | 42,641 | 42,837 |
| 決 算 | 44,838 | 42,706 | 42,760 |

| うち光熱水費 | 【参考】H30年度(更新前) | R1年度 | R2年度 |
|--------|----------------|-------|-------|
| 予 算 | 1,067 | 1,252 | 1,300 |
| 決 算 | 1,154 | 1,256 | 1,345 |

(2) 収入の増加

① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。

【所 見】

① 収入を増加させるための取り組み

コロナ対策として、閉園・イベントの制限を行ったため、有料利用者数減少（前年度比21.7%▼）、収入減少（前年度比27.6%▼）となった。ただし、総入園者数の減少（前年度比40.0%▼）ほどの減少は見られず、施設が屋外で密になりにくいことなどが影響し、入園料を払って入園した個人や少人数グループの利用が増えていると思われる。

また、利用の制限を行った講義室使用料などを含んだその他収入についても、大きく減少（前年度比83.3%▼）している。

なお、コロナの影響により、計画する収入を達成できなかったが、自動販売機の収入や、チュウヒ保全のため「サントリー愛鳥基金（水辺の大型鳥類保護部門）」に申込み（残念ながら不採択）、新年度に向けた外部資金への申請を行うなど、外部資金獲得に積極的に挑戦している点は評価できる。

【有料利用者数（人）】

| 区 分 | | 利用料金（円） | | 来園者総数（人） | | | | |
|-----------------------|-------|---------|-----|----------|--------|--------|--------|-------|
| | | H30 | R1～ | H30 | R1 | R2 | | |
| 有料 利用 者数 （人） | 大人 | 個人 | 一般 | 100 | 100 | 2,565 | 2,328 | 2,225 |
| | | | 年長者 | 無料 | 30 | 1,983 | 456 | 333 |
| | | 団体 | 一般 | 80 | 70 | 36 | 238 | 57 |
| | | | 年長者 | 無料 | 20 | | 26 | 6 |
| | | 年間定期券 | 一般 | | 400 | | 192 | 83 |
| | | | 年長者 | | 120 | | 148 | 76 |
| | 子供 | 個人 | 50 | 無料 | 498 | 2,426 | 1,772 | |
| | | 団体 | 40 | 無料 | 117 | | | |
| | 合 計 | | | | 5,199 | 5,814 | 4,552 | |
| | 来園者総数 | | | | 16,061 | 19,784 | 11,879 | |

【収入内訳（千円）】

| 収 入 | | 【参考】 H30 年度 (更新前) | R 1 年度 | R 2 年度 |
|--------|----|-------------------|--------|--------|
| 利用料金収入 | 予算 | 790 | 285 | 295 |
| | 決算 | 288 | 358 | 279 |
| 自主事業収入 | 予算 | 228 | 165 | 160 |
| | 決算 | 245 | 136 | 102 |
| その他収入 | 予算 | 13 | 24 | 30 |
| | 決算 | 11 | 42 | 7 |
| 計 | 予算 | 1,031 | 474 | 485 |
| | 決算 | 544 | 536 | 388 |

※自主事業収入：自動販売機売上、主催イベント参加料（材料費）

※その他収入：講義室使用料、映像設備・音響設備使用料

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所 見】

① 合理的な人員配置

変形労働制を採用し、年間の休暇日数を確保しながら、季節により繁忙・閑散期に応じた人員配置を実施している。また、緊急事態措置に伴う臨時休園中のテレワーク導入や、共同事業体による運営会議のウェブ開催など、限りある人的資源の中で適切な管理運営を行っている。

② 職員の資質・能力の向上

これまで響灘ビオトープでの業務経験のある職員を複数採用するとともに、新規採用も行い、スタッフ間で細目にわたり情報共有・連携を行っているほか、職場内においてハラスメント講習や、暴力団追放対策に関する研修を実施している。

また、園内での新規イベントを想定したノルディックウォーキングの指導者資格の取得、不測の事態に備えるための「上級救命講習」の受講など、個々のスキルアップを図っている。

③ 地域や関連団体等との連携

◎ボランティア団体、教育機関、企業や環境団体との「協働」

ガイド業務の補助などの活動を行うボランティア団体「響灘ビオトープ愛好会」と協働し、希少種である「ベッコウトンボ」の頭数調査や、「ジャンボタニシ」等の外来種駆除、野鳥観察会など、密にならない各種イベントを協力・連携し実施している。

また、水生昆虫調査や夏休みのイベント開催などにおける「北九州高校魚部」、ベッコウトンボ保全における「日本トンボ学会」及び野鳥調査や写真展などにおける「日本野鳥の会」など、様々な団体と協働している。

◎地域団体、青少年団体との「協力」

前述の「響灘ビオトープ愛好会」の新規会員募集に協力するなどの活動支援を行い、ボランティアガイドの育成にも努めている。

また、教育機関に対して積極的に活動の場を提供しており、「明治学園高校」のジャンボタニシの飼料化に協力するとともに、「北九州高校魚部」には園内を水生生物調査（1～2番池）の実施の場として提供し、活動支援を行っている。

本年度組織された「北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議」では、園内の動植物生息環境調査や植生管理について検討しており、委員の助言をもとに、チュウヒやベッコウトンボに配慮した除草などを実施している。

なお、環境局環境監視課が実施する市内小学校への出張授業では、北九州市のいきものの大切さや生物多様性を題材とし、その中で響灘ビオトープの紹介・大切さを伝えているほか、「響灘ホップの会」を通し、地域と連携してホップを活用したグリーンカーテン作りや自然環境保全活動に取り組んでいる。

【地域や関係団体との連携一覧：抜粋】

| | 連携先 | 取組み名 |
|----------|----------------------|-----------------------------|
| ボランティア団体 | 響灘ビオトープ愛好会 | 各種生息調査関係 |
| 環境団保全体 | 日本トンボ学会 | ベッコウトンボ保全 |
| | 日本野鳥の会北九州支部 | 野鳥調査、写真展協力 |
| | 若松イオンチアーズクラブ | 活動の場の提供 |
| 教育機関 | 市丸小学校 | ガシャモクの生体展示 |
| | 曾根東小学校 | 学校内ビオトープを活用した環境学習 |
| | 北九州高校魚部 | 水生生物昆虫調査、展示協力など |
| | 明治学園高校 | ジャンボタニシの飼料化 |
| 企業 | ブリジストン北九州工場 | ジャンボタニシ拾い (コロナ感染拡大のため中止) |
| 行政機関 | 環境局環境監視課 | 生物多様性を題材とした出張授業 |
| その他 | NPO法人北九州スポーツクラブACE | スポーツジャンボタニシ拾い (雨天中止) |
| | 北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議 | 生息環境調査、希少種保全 |
| | 響灘ホップの会 | ホップ栽培 |

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。
- ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。

- ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。
- ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。
- ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所見】

① 個人情報の保護対策

個人情報は、外部とは接続できないサーバーに保存している。市個人情報保護条例に加え、「特別個人情報社内取扱規程」を共同事業体独自に策定するとともに、「個人情報取扱事業者保険」にも任意で加入している。

② 平等利用に関する配慮

親子連れでも来園し易いようにキッズスペースを設置するとともに、車いすが利用しやすいように野鳥観察窓の改修を行うなど、ユニバーサルデザインにも配慮している。

③ “利用者が限定される施設”には、該当しない。

④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容

共同事業体独自の「経理取扱規則」により、適切に処理している。経理事務のモニタリングの際に金庫の鍵の管理が不十分だったが、その後改善されている。

⑤ 安全対策

コロナ対策においては、環境局とも情報共有し、「北九州市感染症対策会議」の決定事項を適宜確認するとともに、施設内の定期的な換気や接客時のフェイスガード装着など、可能な限りの対策を行いながら、イベントの開催や講座の実施を行っている。

また、熱中症対策として、スポーツドリンクや塩飴、冷却剤などを準備しているほか、園内のエントランス前に休憩用テントの設置などを行っている。

⑥ 危機管理体制

防災総合訓練を実施し、避難経路、避難誘導方法の確認を行うとともに、独自の「安全管理マニュアル」を策定し、万が一のケガや事故発生時は「事故・怪我発生報告書」に記入の上、スタッフ及び共同事業体で情報共有を図り、対策の協議・実施ができる体制を整備している。

⑦ 事故発生や非常災害はなかった。

【総合評価】

【所見】

コロナの影響を大きく受ける年となったが、感染症対策を実施しながら、来園者数及びエコツアー利用者数を少しでも達成しようと努力している。

スポーツと外来種駆除を結び付けた「スポーツジャンボタニシ拾い」（雨天中止）、ネイチャーセンター全体を活用した展示会「原谷明弘木彫展」、著名な生態写真家である栗林慧氏の写真展示、夏場の親子連れの来園を促す「池に入ってワクワク生き物探し」などは来園者にも大変好評であり、本施設の設置目的の一つである自然環境学習施設としての役割を十分に果たしていると評価できる。

利用者アンケートについても、昨年度同様、全ての項目で高い評価を受けており、利用者目線にたった運営が評価されていると考えられる。

本施設の管理運営業務は、通常の施設管理に加え、園内の貴重な自然環境の保全や生物多様性を確保するための湿地保全や植生管理など特殊な維持管理が必要である。園内には希少種であるチュウヒが営巣し、繁殖行動を妨げないように注意深く管理に努める必要がある中、草地除草の計画的実施や、ヒメガマの伐採時期の変更など独自の工夫を凝らし、環境局とも協議しながら効果的に保全に取り組んでいる点が評価できる。

経費の低減については、変形労働制の採用、業務のマルチタスク化による人件費抑制、スタッフ自身での草刈りや水抜きといった管理業務の内製化、可能な限り外注費の削減及び新電力への切替えなど、積極的に取り組んでいる。

また、採択には至らなかったものの、チュウヒ保全のために「サントリー愛鳥基金（水辺の大型鳥類保護部門）」に申込みとともに、次年度以降の他外部資金申請の検討も行うなど、外部資金獲得に積極的に挑戦しており、今後も積極的な姿勢が期待できる。

なお、環境保全団体や企業などと、これまでと同様に綿密な連携を図る一方、教育機関に対し積極的に活動の場を提供、また、市内小学校への出張授業などで響灘ビオトープや生物多様性の重要性などを伝えるなど、新たな連携に取り組む姿勢が見える。

このように、ビオトープ園内の貴重な自然環境保全の確保を的確に実施するとともに、自然環境学習施設という響灘ビオトープの設置目的を踏まえた管理運営が適切に実施されているものと認められる。

[今後の対応]

コロナによる影響は、令和3年度以降も続くものと見られ、利用者の増加を目指すのは、なかなか難しい状況である。一方で、屋外の公共施設として、人混みを避けられる点は強みであると考えられる。

本年度開設した SNS などを積極的に活用するなど、利用者のニーズを汲み取りながら、自然環境学習の場としての役割を果たせるよう、今後も生物多様性に配慮した園内管理を行うとともに、自然環境の保全について学ぶ場を提供する施設運営を期待したい。